

北薩感染症情報

2019年第39週(9月23日~9月29日)

【問い合わせ先】 〒895-0041 薩摩川内市隈之城町228番地1

北薩地域振興局保健福祉環境部(川薩保健所)健康企画課

電話 0996-23-3165 FAX 0996-20-2127

E-メール kita-kenkou-shippei@pref.kagoshima.lg.jp

川薩・出水保健所における定点報告疾患

◎: 警報発令中

○: 注意報発令中

定点種別	対象疾患	警報レベル			注意報レベル	川薩保健所管内					出水保健所管内				
		開始基準値	終息基準値	基準値		前週報告数(人)	今週報告数(人)	定点報告数	前週からの増減	警報注意報	前週報告数(人)	今週報告数(人)	定点報告数	前週からの増減	警報注意報
		定点報告数													
内科・小児科 定点	インフルエンザ	30.0	10.0	10.0	2	2	0.29	→	-	2	1	0.20	↓	-	
小児科定点	RS	-	-	-	30	13	3.25	↓	-	13	7	2.33	↓	-	
	咽頭結膜熱	3.0	1.0	-	1	-	-	↓	-	5	2	0.67	↓	-	
	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	-	8	9	2.25	↗	-	4	3	1.00	↓	-	
	感染性胃腸炎	20.0	12.0	-	15	18	4.50	↗	-	5	1	0.33	↓	-	
	水痘	2.0	1.0	1.0	-	1	0.25	↗	-	2	2	0.67	→	-	
	手足口病	5.0	2.0	-	4	2	0.50	↓	-	22	14	4.67	↓	◎	
	伝染性紅斑	2.0	1.0	-	10	31	7.75	↗	◎	-	1	0.33	↗	-	
	突発性発疹	-	-	-	2	7	1.75	↗	-	-	-	-	→	-	
	ヘルパンギーナ	6.0	2.0	-	15	5	1.25	↓	-	1	-	-	↓	-	
	流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3.0	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
眼科定点	急性出血性結膜炎	1.0	0.1	-	-	-	-	→	-	/	/	/	/	/	
	流行性角結膜炎	8.0	4.0	-	1	1	1.00	→	-	/	/	/	/	/	
基幹定点	細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
	無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	→	-	-	1	1.00	↗	-	
	クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
	感染性胃腸炎 病原体がロタウイルスに限る	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
インフルエンザ 入院報告	-	-	-	-	-	/	/	-	/	/	/	/	-		
報告数合計		-	-	-	88	89	/	↗	/	54	32	/	↓	/	

<注意報・警報>
 ・川薩保健所管内 伝染性紅斑の警報が6週連続継続中
 ・出水保健所管内 手足口病の警報が4週連続継続中

<全数報告>
 ・川薩保健所管内 無し
 ・出水保健所管内 結核(患者1人), 腸管出血性大腸菌感染症(患者1人)

<インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等>
 ・川薩保健所管内 なし
 ・出水保健所管内 なし

(注意報・警報)

○伝染性紅斑について

【警報開始基準値 2.0, 警報終息基準値 1.0】

(第39週は川薩・出水のみ掲載)

第39週の伝染性紅斑の発生状況は、川薩保健所管内からは、**31名**(定点あたり報告数7.75)の報告がありました。

6週連続の警報です。38週に患者報告数が減少したものの、39週で再び増加しました。

引き続き感染の予防をお願いします。

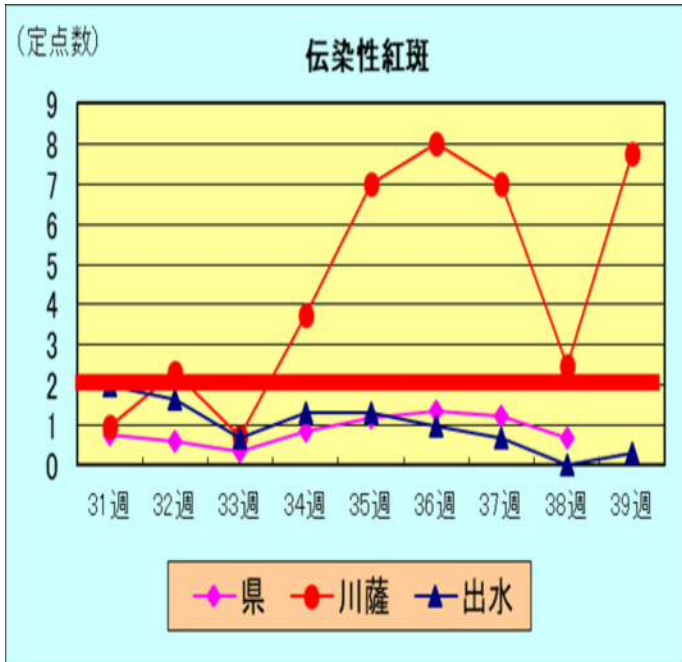
出水保健所管内からは、1名(定点あたり報告数0.33)の報告がありました。

注 意

伝染性紅斑は、ヒトパルポウイルスB19を病原体とし、幼児、学童の小児を中心にみられる流行性の発疹性疾患です。

両頬がリンゴのように赤くなることから「リンゴ病」と呼ばれています。

一般的な予防対策として、手洗い、うがい、咳エチケットを心がけることが重要です。



○手足口病について

【警報開始基準値 5.0, 警報終息基準値 2.0】

(第39週は川薩・出水のみ掲載)

第39週の手足口病の発生状況は、川薩保健所管内からは2名(定点あたり報告数 0.50)の報告がありました。

出水保健所管内からは**14名**(定点あたり報告数4.67)の報告がありました。

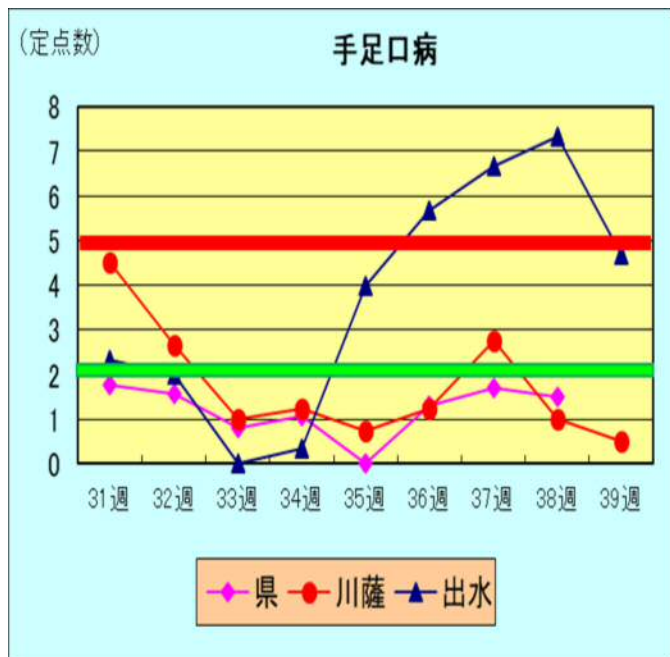
患者の報告が減少しています。

4週連続の警報です。感染の予防をお願いします。

注 意

手足口病は、水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス感染症です。

一般的な予防対策として、患者に近づかない、手洗いの励行を心がけることが重要です。



注意 インフルエンザの流行が 例年よりも2カ月早く始まっています

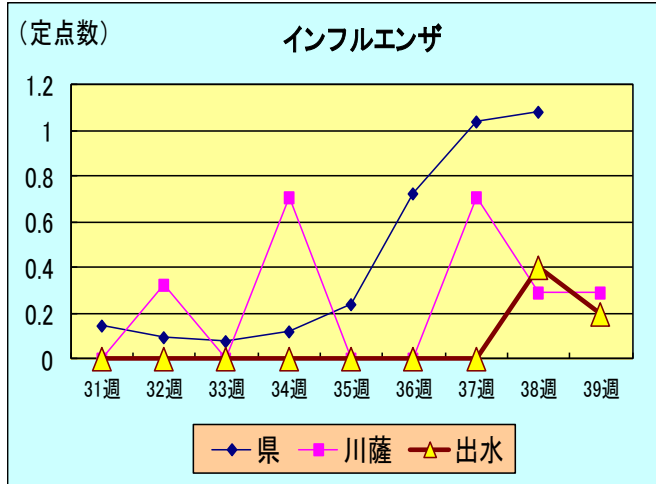
(第39週は川薩・出水のみ掲載)

鹿児島県感染症情報によると、34週から連続で患者報告数が増えている状況です。

例年は、12月頃から流行が始まりますが、今年の37週報告(9月9日~9月15日)によると、県全体で、定点あたり1.04人と、「インフルエンザ流行開始の目安である1.00」を約2か月早く超えています。

鹿児島市内の小学校では、今シーズン県内初の「学級閉鎖」の報告がありました。

38週報告から県内学校欠席情報によると、インフルエンザによる欠席者の殆どがA型インフルエンザです。



予防接種等の早急の予防対策が必要です。

◎ 特徴と対策について

「重症化して合併症を引き起こす、いちばん身近な感染症」

○ インフルエンザの合併症は死に至る場合も
特に高齢者にとって、インフルエンザは大変危険な病気です。抵抗力が弱い高齢者や乳児、持病のある人は、肺炎を併発し、最悪の場合は死に至る場合もあります。

○ インフルエンザの予防法
・手洗い、マスク、予防接種
(飛沫感染、接触感染の予防)

○ インフルエンザにかかってしまったら
・すみやかに受診
・自宅療養の注意点
家族への感染を防ぐため、なるべく家族から離れた個室で療養し、マスク着用、部屋の換気を行うことが重要です。

○ 咳エチケットも「うつさない」「うつらない」ための重要なマナー
咳やくしゃみがでるときには、ティシュペーパーなどで鼻と口を押さえことが重要です。

※ 厚生労働省インフルエンザ啓発ツールヘリンクしています。

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/keihatu.html>



インフルエンザの感染を防ぐポイント...



インフルエンザ予防接種...